

program 01
オープニングムービー

program 02
開会挨拶

program 03
「第4次豊中市総合計画」の概要説明

program 04
パネルディスカッション

Symposium Report

豊中市のみらいを創る

「第4次豊中市総合計画」シンポジウム

開催日 平成30年(2018年)2月7日(水)

時間 18:30~20:00

会場 豊中市立文化芸術センター 小ホール

来場者 185名

目次

オープニングムービー	P. 1
開会挨拶	P. 3
パネルディスカッション	P. 4
アンケート結果	P. 18

オープニングムービー

シンポジウムでは、はじめにオープニングムービーの上映を行いました。

オープニングムービーは、シンポジウムの開催に合わせて、「10年後、豊中市はどんなまちになっていてほしいですか？」との問いかけに、市民や事業者のみなさんに答えてもらい、それをつなぎ合わせて作成しました。



10年後、
豊中市はどんなまちに
なっていてほしいですか？





未来創造都市 とよなか
 あした
 ～明日がもっと楽しみなまち～



平成30年(2018年)4月
 「第4次豊中市総合計画」
 スタート!!

開会挨拶／豊中市長 浅利 敬一郎



本日は、大変お寒い中、「豊中のみらいを創る総合計画シンポジウム」にご参加いただきましてありがとうございます。

本日のシンポジウムは昨年12月に策定し、平成30年4月からスタートする「第4次豊中市総合計画」についてご説明させていただくとともに、豊中の未来について、みなさまとともに考える機会として、開催させていただきました。

昨今の社会環境は少子高齢化の進展をはじめ、ライフスタイルの多様化、情報化のめざましい進展などにより、日々、変化しております。そのような中、豊中市は平成17年を起点に人口が増加傾向に転じたことや、平成24年には中核市に移行したことなど、大きな変化がございました。このような時代の流れに対応した持続可能なまちづくりを進めるために、現計画の目標年度を前倒ししまして、「第4次豊中市総合計画」を策定いたしました。

計画の策定にあたっては、幅広い世代の市民や事業者のみなさまにご参加をいただき、ワークショップやアンケートなど、様々なかたちでご意見をいただきました。一例でございますが、小学生には「10年後の豊中のまち」をテーマにした作

文、中学生・高校生には、「将来の豊中市」をテーマとしたイラストを募集するなど、次代を担う子どもたちからもご意見をいただきました。

このようなみなさまのご協力もあり、本市のめざす「まちの将来像」に「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」を設定いたしました。この将来像を実現するために、今後5年間、17施策に取り組んで参ります。

今回の計画の特徴といたしましては、市民・事業者のみなさまとともに重点的に取り組んでいくこととして、南部地域の活性化を打ち出しました。

この計画の内容につきましては、後ほど、職員から説明いたします。その後のパネルディスカッションでは、パネリストの方々と意見交換をして参ります。

本日のシンポジウムをきっかけに、市民・事業者のみなさんと行政がさらに一丸となって、まちづくりを進めていかなければならないと考えております。短い時間ではございますが、ご参加のみなさんにとりまして、本日が実りのある時間となることを願いまして、私からの挨拶とさせていただきます。

パネルディスカッション

加藤氏 みなさん、こんばんは。これから 70 分くらいの時間を頂戴しまして、みなさんの「第 4 次豊中市総合計画」に対する理解を促すようなパネルディスカッションをしていけたらと思っています。

総合計画をテーマとするシンポジウムで会場が満席になるというのは私の経験上、初めてでして、非常に市民のみなさんの関心の高さを感じます。

パネルディスカッションは 4 つぐらいのテーマで進行していきたいと思っています。パネリストのみなさんからはそれぞれのお立場から、ご意見やアイデアなどをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では最初のテーマですが、「第 4 次豊中市総合計画」では「まちの将来像」として「**みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～**」を設定しています。この将来像についてご意見等をお聞きかせできればと思いますが、まずは、私がどのように感じているのかをご紹介します。

— まちの将来像「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」について、どのように思われますか

加藤氏 「第 4 次豊中市総合計画」を策定する 3 年前に「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。当時はこのまま人口が減少していくと、自治体の多くが消滅する可能性があるというレポートなどもあり、人口減少に対する危機感が日本全国を覆っていました。そういう中で、各自自治体が人口の減少への対応をしていかなければならないということで、「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が作られたわけです。

実は国のデータでは、豊中市は平成 52 年（2040 年）頃には 33 万人台に人口が落ち込むだろうと推計されていました。「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、そうした推計を受けた上で、検討をしまして、もっと成長戦略を採ってもよいのではないか、成長戦略で考えることによって人口減少を緩和していけるのではないかとということで、平成 52 年（2040 年）に 38 万人という目標を掲げました。かなり強気の目標設定をしたわけです。

そして今回の「第 4 次豊中市総合計画」では、目標年度である平成 39 年度（2027 年度）、また前期基本計画の目標年度である平成 34 年度（2022 年度）の想定人口を 40 万人と想定しています。こちらでも強気の設定をしています。

パネリスト



● コーディネーター
関西学院大学 名誉教授
加藤 晃規さん

関西学院大学総合政策学部教授を経て、平成 27 年 4 月から現職。都市政策及び都市デザインの専門家として、数多くのまちづくりプロジェクトに関わる。平成 28 年 6 月から豊中市総合計画審議会 会長を務める。



豊中商工会議所 名誉会頭
國貞 眞司さん

昭和 61 年 6 月、三國製薬工業株式会社代表取締役社長に就任。豊中商工会議所会頭を経て、平成 28 年 11 月から現職。平成 28 年 6 月から豊中市総合計画審議会の委員を務める。



この40万人という目標は、これまでのトレンドから考えると、いささか厳しい設定ではないかというご批判もあるかもしれません。しかし、政策や施策を打つことによって、未来は変えられる。あるいは、未来を変えなければならない状況に豊中市があるということで、今回、40万人という想定人口が設定された経緯があり、そのための総合計画となっています。つまり、合計特殊出生

率を引き上げる、若い世代の転出を抑制し、転入を促していくための政策、施策を盛り込んだ内容となっています。前期基本計画の第1章に「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」を持ってきているのにも、そのような思いが込められているわけです。

要するに、チャレンジングな取組みをしていくことによって、豊中のみらいを創造していく必要



甲南大学 経済学部教授 /
地域連携センター参与
石川 路子さん

専門は地域経済学。地域の住みやすさや QoL の格差分析に関する研究を行う。平成 28 年 5 月から豊中市市民公益活動推進委員会 副会長 / 審査部会長、平成 29 年 3 月から豊中市上下水道事業運営審議会委員を務める。



豊中市長
浅利 敬一郎

大阪教育大学卒業後、昭和 44 年、保健体育の教員として寝屋川市立第一中学校に赴任。大阪府教育委員会副理事、豊中市教育長などを経て、平成 18 年 5 月から現職（現在 3 期目）。



があることから、今回「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」という「まちの将来像」が設定されています。副題の「～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」は、楽しみが増えていく、楽しみを創造していく、そしてそのことが、みらいの豊中市を創っていく。そのような思いがこの「まちの将来像」には込められているのだと理解しています。

それでは「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」という今回の「まちの将来像」についてどのように思われているか、あるいはどう受け止められているのか、國貞さんから順に、ご発言をお願いしたいと思います。

國貞氏 私は豊中市との関係が半世紀になろうとしています。豊中商工会議所を通じたご縁で、このたび、「第4次豊中市総合計画」の審議会委員に選ばれて、委員のみなさんと豊中市の未来について議論を重ねてきたわけですが、その過程で、改めて豊中市はおもしろく、よいま



ちだどつくづく感じた次第です。これからいかにして、豊中のまちづくりに貢献させてもらえばいいのか。それを今、考えているのですが、私の目線というのは、一中小企業の経営者の目線です。その目から見て、今の世の中のスピードは非常に早く、めざましい変化が起こっていると感じています。いっどこでどのような変化が起こるか分からないのが今の時代です。そのような中で、今回「第4次豊中市総合計画」が策定されたわけですが、5年先、10年先の目標を達成するには、チャレンジしていくことが欠かせないように思います。とにかく挑戦していく。トライアンドエラーという語弊がありますが、めまぐるしく変化していく時代に対応していくには、みんなで汗を流して、試行錯誤を繰り返していくしかないように思います。審議会では、そのようなことを繰り返し発言させていただきました。

豊中市は恵まれたまちです。空港もありますし、交通利便性が非常に高いです。そしてなにより、素晴らしい市民のみなさんがお住いになって



います。また、大阪市に隣接しているというのも、大きな強みです。個人的には豊中市はどこを取っても素晴らしいと日々感じているのですが、「第4次豊中市総合計画」を通じて、より楽しく、夢がある、そんなまちにしていけたらと思います。私たち事業者も、みらいの豊中市を創造していく一員として、努力をさせていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

加藤氏 豊中市は資源が多く恵まれています。だからこそ、豊中市ならではの総合計画ができたと思います。

石川さんはどのように思われますでしょうか。

石川氏 私は現在、豊中市市民公益活動推進委員会の委員を務めさせていただいておまして、豊中市の地域団体のみなさんと接しさせていただく機会があります。現在は、学識経験者としてその委員会に参加させていただいているのですが、もともとは市民委員として参加させていただ



いており、かれこれ15年くらい、豊中市との関係を持っています。本日は、そうした立場から発言をさせていただきます。

初めて「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」という「まちの将来像」を見させていただいた時、本当に素晴らしい将来像だと思いました。「まちの将来像」というのは、各市、色々な表現で設定されていますが、基本的には、時代に応じた表現で、更新されていくものです。先ほど國貞さんが今は変化のスピードが早いというお話をされましたが、「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」という今回の将来像は、時代が変わってもぶれない強さがあるように思います。その意味で、未来を大きく見据えた将来像となっていると思います。また、ワクワク感がある表現となっており、将来ももっともっとよくなっていくのではないかと感じられるような将来像になっているのではないかと思います。



また、「創造」という言葉が入っているわけですが、すけれども、「創造」というと一見、クリエイティブなアーティストや芸術家のような人たちが新しいものを創っていくというようなイメージを持たれるかもしれませんが。ですが、アーティストや芸術家といった、ある種、特別なスキルを持った人に限らず、本当に豊中市民のみなさんはクリエイティブな人が多いように思います。つまり、まちを創っていくクリエイティビティというのは、アーティストや芸術家だけのものではなく、市民のみなさん一人ひとりが持っているものであり、どんな人でもクリエイティビティを発揮できるものだと思います。先ほどの國貞さんのお話にもつながるかと思いますが、市民の一人ひとりがクリエイティビティを発揮して色んなことに挑戦し、豊中の未来を創っていく。そういう意味合いが、この「まちの将来像」には込められているかと思いますが、そうしたまちを創っていくだけのポテンシャルを、豊中市は持っていると感じています。

加藤氏 ありがとうございます。豊中市の市民のみなさんがクリエイティブだというお話がありましたが、私もその通りだと思います。

現在、クリエイティブ・クラスという新たなカテゴリーが生まれています。情報通信技術に関わっている人や芸術家、大学院を卒業したような高度な専門性を有する人たちなど、新たな価値を創

出するクリエイティブな人材をクリエイティブ・クラスと呼ぶのですが、そういう人たちは郊外に好んで住む傾向にあると言われていています。豊中市は大阪市の郊外ですし、実際に、市民活動等からも市民のクリエイティビティの高さが伺えるように思います。豊中市市民公益活動推進委員会の委員としてのお立場から、非常に心強い、ご発言をいただきました。ありがとうございます。

浅利市長はいかがでしょう。

浅利市長 「第4次豊中市総合計画」は、審議会の答申を受けまして、少子高齢化や人口減少など、社会構造が大きく変わる局面で、豊中らしさをさらに発展させていく内容となる計画として策定させていただきました。

豊中のまちづくりにおいては、特に市民や市民活動団体、そして事業者のみなさんなど人、人材が大きな強みだろうと認識しております。

第3次の総合計画は計画期間が前期後期で20年間でした。しかし、社会構造の変化が著しいことから、計画期間を前倒し、第4次の総合計画では前期後期で10年間の計画期間といたしました。同時に、施策数が多いと評価をするのが難しいこともありましたので、今回、施策を17に絞らせていただきました。また、審議会の委員のみなさんのご意見をはじめ、市民や市民活動団体、事業者のみなさんのご意見を踏まえながら、なおかつチェックをしていただき、軌道修正を図りながら、計画を練り上げてきました。策定後も同様に、みなさんに評価をしていただきながら、後期へつなげていこうと考えております。

さらに時代が変革していきます。産業構造も大きく変わろうとしています。しかしながら、豊中市には素晴らしい人材がおられ、活動を展開されています。これまでも、市民や事業者のみなさんと行政が協働して、地域福祉や安心・安全のための取り組みを進めて参りましたが、これからは「^{あした}明日が楽しみなまち」となるようにもっと積極

的に、互いの持てる資源や取組みを補完しあいながら、連携や協働を推進していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

加藤氏 「第4次豊中市総合計画」の「まちの将来像」である「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」について、今のお三方のご発言をお聞きして、ご来場のみなさんの理解が深まったのではないかと思います。

この将来像を実現していくためには、あらゆる主体の不断のアクションが必要になってきます。考え方によると、主体性を求められることに対して重荷を感じられる方もおられるかもしれません。「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」という将来像には、市民や事業者の、主体的で創造的な取組みも含意されていますし、計画内にも、「市民・事業者の主な取組みイメージ」も示されています。もちろん、この掲載にあたっては色々と議論があったわけですが、急激な社会変動の中において、成長路線でチャレンジしていくには、行政だけでなく、市民や事業者もまちづくりのプレイヤーの一員として参画していくことが欠かせません。

繰り返しになりますが、今回の総合計画には「市民・事業者の主な取組みイメージ」が示されています。これからのまちづくりにおいて、市民や事業者のみなさんの役割をどのように考えていけばいいのか。この点について、みなさんのご意見等をお伺いできればと思います。

石川さん、いかがでしょうか。

— 前期基本計画では「市民・事業者の主な取組みイメージ」が掲載されました。市民・事業者のまちづくりの役割をどのように考えられますか



石川氏 先ほど、加藤先生から「市民・事業者の主な取組みイメージ」を掲載するにあたって、色々なご意見があったというお話がありましたが、他市の総合計画では、このように市民や事業者の役割を明記しているような事例はあまりないように思います。その意味で、「第4次豊中市総合計画」は豊中市の市民力や地域力といった強みを活かしているオリジナリティのある計画だと感じます。

また、「市民・事業者の主な取組みイメージ」を打ち出すことによって、メッセージ性の強い総合計画になっているように思います。誰がこのまちをよくしていくのか、また創りあげていくのかということ考えた時に、行政だけが主体になるよりも、市民や事業者が行政と連携や協働を図りながら、まちづくりを展開したほうが、より地域の魅力を引き出していけるように思いますので、そうした方向性を強く示しているという意味で、非常によいのではないかと感じています。

「まちの将来像」にも関係しますが、挑戦する、創造するというのは、受け身ではなく、自分発信でどんどん行動を起こしていくということの意味しています。行政に任せる、責任を押し付けるというのは簡単なのですが、まちづくりの主体が行政だけだというのは、すごく弱いことでもあります。市民も、そして事業者も、まちづくりのプレイヤーの一人として、主体的にアクションしていくことができるまちというのは、行政任せのま

ちよりも、強く、持続可能性があると思いますので、今回の総合計画で、「市民・事業者の主な取組みイメージ」を示したということは非常に意義深いことではないかと個人的には思っています。また、市民、事業者、行政にはそれぞれの立場もありますし、得手不得手もあるのですが、一人ひとりが未来について考え、行動していく契機としても、「市民・事業者の主な取組みイメージ」を示すことが重要な働きをするように思います。

加藤氏 ありがとうございます。

市民としても、事業者としても、まちづくりへの関わりが経験豊富な國貞さんはどのように思われますでしょうか。

國貞氏 私は商工会議所の仕事もやっているということもあって、他の事業者の方から、今、豊中市はどのような方向性でまちづくりを進めているのか、事業者はどのようにまちに関わっているのかということ聞かれることがあります。

豊中市は起業・チャレンジセンターを運営しており、起業しようという人の後押しや支援など、起業家を育成していく取組みを行っています。また、安心・安全の面では、みなさんもご存知だとは思いますが、「消防防災協力事業所登録制度」を設け、災害時や事件・事故発生時等に事業者が初期対応などできる範囲で協力するという体制を整えています。現在、この制度には市内の約350

社が登録しているなど、各事業者が地域の一員だという意識をもって、まちづくり活動に取り組んでいます。その他にも、地域の清掃をはじめとする美化活動を、それぞれの自治会のみなさんと協力しながら取り組んでいる事業者も多くいます。それぞれが気付いたこと、やれることをやる。そういう意識が、豊中の事業者には芽生えていますし、現に、取組みも行われています。

商工会議所としては、現在、市内への企業誘致を進める取組みも行っています。ある企業の社長さんは、色々な土地で仕事をさせてもらっているが、こんなに素晴らしいまちはないと豊中市のことをおっしゃっていました。はじめはリップサービスかなと思ったのですが、話を聞いてみるとそうではありませんでした。普通、事業者が行政に対して、こんなことがしたい、あんなことがしたいと相談をする、あるいは提案をすると、色々な課に回される、いわゆるたらい回しにあうのだが、豊中市の場合は、関係する課が一同に集まってくれて、すぐに話をつけることができたんだと感激されていました。しかもそれだけではなく、アイデアもいただいたとおっしゃるんですね。事業者が新たに事業を行おうとすると、法律や条例に引っかかる場合があるのですが、それを豊中市の職員は、こうしたらどうか、ああしたらどうかと、実現のためのアイデアや方策を一緒に考えてくれたそうです。いろいろな事業者の方と話をしますが、これは本当に素晴らしいことで、誇るべきことだと思います。

それと、その社長さんは、市民のみなさんからのアプローチもすごく嬉しかったとおっしゃっていました。早く来て、一緒に頑張ろうと、市民からも声をかけてもらえたそうです。こんなこと、普通ありません。それを聞いて、私も涙が出るほど、嬉しかったです。

これはあくまで1つのエピソードですが、豊中市は、市民も行政も、事業者と一緒にまちづくり



をやっていくんだという思いを持ってきていますし、事業者としても、地域の一員として、まちに関わっていこうという意識を強くもっているまちです。ですので、市民、事業者、行政が一体となって、いろんなこと、おもしろいことに挑戦していけるのではないかと、そういう期待感を持っています。

加藤氏 今の社会というのは、動きの激しい社会です。社会が非常に複雑化、多様化してきており、隠れたところにニーズがたくさんあるという状況があるのですが、行政側からはそれらのニーズが見えていないということも起こっているように思います。つまり、今の社会課題や地域課題に対しては、行政だけでは、課題もニーズも把握できないということもあり、より現場に近い、市民や事業者に求められる役割が大きくなってきているのではないかと思います。だからこそ、市民、事業者、行政が協働する必要があり、その協働の良し悪しによって、課題への対応も変わってくるように思います。

今回の総合計画では、「南部地域活性化プロジェクト」というリーディングプロジェクトというものも設定しています。従来的には、総合計画にリーディングプロジェクトを打ち出すというのはなかなかしなかったのですが、今回の総合計画では、選択と集中の視点から、南部地域に重点的に資源を分配することで、豊中市全体の価値をあげていこうという意図を持って、リーディングプロジェクトを設定しています。この点につきまして、ぜひ浅利市長から、ご意見をお聞きできればと思います。

— 南部地域のリーディングプロジェクトについて、どう思われますか



浅利市長 豊中市の面積は 36.6 km² で、基礎自治体としては、面積的には小さな市です。また、過去から教育文化都市・住宅都市として発展してきております。市域を見回してみますと、本市には 41 の小学校がありますが、それぞれの小学校区で違った顔があり、特徴、取組みがあります。また、小学校区よりも大きい、豊中市都市計画マスタープランで設定している 7 つの地域区分で見ても、それぞれのカラーがあると言えるかと思えます。

豊中市は民間事業者による投資や開発も多く、企業立地や住宅開発も進んでいますし、それらに伴い、人も流動的に動いています。

しかしながら、先ほど事務局から説明があったように、南部地域では、この間、ずっと人口が減少してきています。穂積菰江線、三国塚口線などの道路も進捗していますが、狭隘な道路があったり、密集市街地や住宅の耐火・耐震性の問題などもあります。また、少子高齢化も市内で一番進行しており、他地域と比べても、ずいぶん違いがあり、課題も多く抱えています。総合計画の策定に向けて、議論を進めてきた中で、やはり南部地域が活性化し、他市から南部地域に移り住んでもらう、あるいは子どもたちが元気に活動をする、そういうまちづくりを進めていかなければならない。そうすることができれば、豊中市全体に与

前期基本計画



▲ 「第4次豊中市総合計画」前期基本計画の構成

えるポジティブな影響も大きいのではないかと
いうことになり、今回、「南部地域活性化プロジ
ェクト」をリーディングプロジェクトとして位置
づけました。

確かに、行政としては、一点集中型のこうした
プロジェクトを位置づけることは難しいわけ
ですが、南部地域は大阪市に大変近いという利便性
を有するなど、ポテンシャルの高い地域です。南
部地域の商業・工業を元気にする、市民活動を盛

んにする、古くなった公共施設等を総合的に更新
し、機能の集約を図ると同時に新たな機能を持た
せる。そうしたことができれば、人口も増やして
いくことができると考えています。

千里には千里コラボセンターがありますが、南
部にも南部コラボセンターを設置する。また、児
童数・生徒数が減少していく中で、魅力ある学校
づくりを進めようと、教育委員会が中心となっ
て、小中一貫校や義務教育学校に向けた取り組み

も進めています。これまで教育の世界では、学級担任制、教科担任制などに伴う課題があったわけですが、そうした課題にも対応していこうとしています。同時に、事業者のみなさんの投資や開発を促していけるよう、市民のみなさんだけでなく、事業者のみなさんのご意見やお知恵をお借りしながら、プロジェクトを進めて参りたいと考えております。

加藤氏 お話を聞いておりますと、いわゆるハードー辺倒の従来型の開発ではなくて、ソフトとハードを合わせた施策展開をしていくということで、非常にチャレンジングであり、今までとは異なる開発思考ではないかと思えます。

リーディングプロジェクトに関して、國貞さんはいかがでしょう。

國貞氏 私も南部地域で事業を行っていますので、リーディングプロジェクトには非常に期待しております。

南部地域には手つかずといえますが、これまであまり活用されてこなかった非常に豊富な資源が眠っているのではないかと思います。南部地域はまだまだこれから発展していく余地のある地域であり、資源の組み合わせ方次第で、どんどん面白いことを展開していける気配があり、非常にワクワク感を持っています。南部地域には豊南市場、大阪音楽大学、公共施設もありますし、ものづくり企業の集積もあります。しかも、オンリーワンの、日本で唯一、あるいは世界で唯一の技術力を持った企業が多く立地しています。そういったこともありますので、異業種が連携や協業をし、切磋琢磨して、新しい価値を共創していくということも、比較的しやすい土地柄ではないかと感じています。 今後はそうした取り組みを進めながら、できるだけ多くの事業者に活躍してもらい、多くの人に来てもらえるようになっていけば、幸せだなと思えます。

加藤氏 リーディングプロジェクトでは、地域から立ち上げていくような、ボトムアップ型の取り組みも必要になってくるだろうと思いますが、そのあたりについて、石川さん、いかがでしょうか。

石川氏 加藤先生や浅利市長からもありましたが、総合計画の中で、リーディングプロジェクトを位置づけるというのは、ある意味、勇気があることだと思います。それを今回、策定過程でリーディングプロジェクトを設定するということを決められたということは、非常に強い意志を感じますし、素晴らしいことだと思います。

豊中市市民公益活動推進委員として、地域で活動をされている方とお話をする機会がありますが、本当に南部地域の方は非常に活発に活動をされています。お話をしている、意気込みを感じますし、地域をよくしたいと強く思っておられる方がたくさんいらっしゃいます。もちろん、こういう方がたくさん活動されているということは、非常に素晴らしいことではあるのですが、逆を言えば、それだけ取り組むべき課題を地域として抱えているということでもあるのではないかと思います。

そういう意味では、リーディングプロジェクトとして、南部地域に力を入れて、どんどんよくしていくための施策を打っていくということは、そうした地域活動を行っている方を勇気づけることにもなりますし、相乗的に、地域をよくしていくことにつながっていくのではないのでしょうか。

今までのまちづくり、特に郊外のまちづくりでは、どこのまちでも同じようなお店が立ち並び、風景が均質化して、地域の独自性やオリジナリティが失われていくということがありました。しかし、今は本当に生活者のニーズが多様化しており、色々な思いを抱えた市民の方が生活されています。ですので、これからは従来のような均質化したまちづくりではなく、そのまちの個性を伸ば

すようなまちづくりをしていく必要があるかと思ひます。先ほども言ひましたように、南部地域というのは、非常に市民活動が活発な地域です。リーディングプロジェクトではハードとソフトの両面での施策展開がなされるのだと思ひますが、どちらの側面においても、そこで活動を展開している方たちの思いをのせた施策展開をしていただきたいと思ひます。

また、先ほど、浅利市長からもお話がありましたが、本当に豊中はいろんな顔を持っています。豊中市だからといって、一括りにするのではなく、南部地域の個性を活かして、なおかつ地域の課題を解決していく、そういったプロジェクトにしてほしいと思ひます。

加藤氏 今のお話を聞いていますと、南部地域を開発、発展させていくことで、豊中市の新たな魅力を開花させることができるように思ひます。南部地域には千里などの北部とは違った個性があるわけですので、北部とはまた違うターゲット層へのアプローチが可能となり、南部地域の利用者や観光客を増やしていけるのではないかと思ひます。先ほどからお話が出ているように、南部地域には活用できる資源がたくさんあります。リーディングプロジェクトを推進していく上では、ぜひ楽しいやり方で、チャレンジングな取組みを、市民や事業者なども巻き込みながら、展開していただきたいと思ひます。期待しています。

時間も迫ってきていますので、最後のテーマに入りたいと思ひます。

4月から「第4次豊中市総合計画」が実際に動き出していくわけですが、豊中市の未来への期待や思いなどをみなさんにお聞かせできればと思ひます。

それでは、まずは浅利市長からからお願いいたします。



— 「第4次豊中市総合計画」の実施に向け、豊中市の未来に期待することは何ですか

浅利市長 私は3点ございます。

まず1点目ですが、これまで先人や先輩のみなさんが、教育文化都市、良好な住宅都市、福祉先進都市といったまちづくりを展開されてきました。また豊中市の資源や強みとして、市民力や地域力があり、私の立場からは言いにくいのですが、職員力もあると思ひますし、そして、議会のみなさんのご活躍もあります。こうした資源が揃っているからこそ、これまで安定した都市が運営されてきたように思ひます。やはり、他市に比べて、市民力、地域力は非常に大きいものがありますが、今後とも、豊中市の資源や強みを活かしながら、これまで以上に、教育文化都市、良好な住宅都市、福祉先進都市としてのブランド力を高めていきたいと考えております。

このパネルディスカッションで何度も出てきていますが、豊中は施設や人材などの資源が非常に恵まれたまちです。空港もあり、大阪大学や大阪音楽大学があるということも大きなポテンシャルです。彼ら学生たちと一緒に地域づくり、まちづくりをしていく。あるいは、現在、音楽あふれるまちとしての取組みを進めていますが、日本センチュリー交響楽団といった団体のお力もお借りしながら、まちづくりを進めていくことも重要

だと感じています。また、市民のみなさんや市民活動団体、それから事業者のみなさん、そういった方たちと連携、協働でまちづくりを進めていく。この10年間で、市民力、地域力を存分に発揮してもらえるようにしていくというのが2つ目のポイントです。

3点目ですが、子どもたちが輝くまちづくりを進めてきています。出生数が全国的に減少している中、子どもたちが元気に活躍できる、子どもたちに色んなサポートをしてあげられる、豊中市で子育てができてよかったと思ってもらえる、そういったまちづくりを進めていきたいと思っています。これは全国どこでもそうだと思いますが、子どもの成長や発達、共生していく力、人間性を高めていく取り組みなど、子どもに焦点を当てた、10年間にしていくことが必要ではないかと感じています。

私は今回の「第4次豊中市総合計画」を進めていくにあたって、以上の三点を意識して取り組んでいくことが、これからの豊中市には必要だと感じています。

加藤氏 3点、非常に分かりやすく、ご意見をいただきました。ありがとうございます。

國貞さんはいかがでしょう。

國貞氏 私が1番大事だと思うのは子どもです。事業者の目から見ても、大事なのは人です。子どもをいかに大事に育てるか。大事というのは、単にかわいがって育てるということではありません。要は、鍛え上げる。「三つ子の魂百まで」といいますが、子どもにはそれぞれ個性がありますが、小さい頃の感性、感覚、環境、この3つがその人をつくると私は思っています。

先ほど浅利市長から南部地域の小中一貫教育や南部コラボセンターなどについて具体的なお話がありましたけれども、これは本当にチャンスだと思います。そして、われわれ事業者も、でき

れば積極的に、そうしたプロジェクトに参画させていただきたいと思います。そうして、子どもたちに、学校だけにとどまらず、実際の社会に触れてもらう機会をつくり、実教育といいますか、実体験を子どもたちにさせていただければと思います。

その意味でも、小中一貫教育や南部コラボセンターなどをはじめとするリーディングプロジェクトは重要だと思います。豊中市の未来のためにも、子どもたちのことを考えて、プロジェクトを推進させていただきたいと思います。以上です。

加藤氏 子どものためのまちづくりに期待したいとのことのご意見でした。

石川さんはいかがでしょう。

石川氏 総合計画は策定まで時間がかかりますので、こうして出来上がると、よいものができたなど満足してしまうのですが、あくまでこれらがスタートです。この計画を実現させていくためには、それぞれのプレイヤーが役割をもって、取り組んでいくということが非常に重要になってきます。そのためにも、行政職員だけではなく、市民の一人ひとりが、できることを一生懸命行ふんだという意識を持つことが大事ですし、思いや目標を共有するということが必要ではないかと思っています。

最近、ダイバーシティ、多様性の重要性がよく指摘されていますけれども、本当にこれからの時代は、ダイバーシティというのが大きなキーワードの1つとなってきます。多様性を受け入れていく、あるいは多様性を受け入れる状況をつくっていくのは、行政だけでなく、市民や事業者であるということに自覚的になっておかなければいけません。

先ほど、浅利市長や國貞さんから教育についてのお話がありましたけれども、私は大学の教員として、学生たちと接する機会が多いのですが、若い人たちにとって一番学びが大きいのは、違った立場の人と交流する機会を持つことではないかと、いつも感じています。そしてそのことによって、社会の一員として素晴らしい展開、つまり、社会や地域に貢献できる人材に育っていくことにつながるように思います。

今やインターネットが一般化していますが、私が最初にインターネットに触れた時には、色々な情報にアクセスすることができて、自分の視野が広がるんだろうなという期待感がありました。当時はインターネットを自分の視野を広げてくれる一つのツールとして考えていたわけですが、今の若い人たちはどうやら少し違っているようです。インターネットが一般化して、色々な人たちが利用し、様々な立場からの多様な意見がインターネット上に溢れかえっているからこそ、自分の気に入った世界、コミュニティにどっぷり浸かってしまう人が多いように思います。つまり、広いインターネット上においても、自分と意見があう狭い世界にだけ属するような人が多く、インターネットがもはや自分の視野を広げるツールとしては機能していないようにも思います。自分と価値観があう人たちとの交流だけで生きていける世の中になってきているために、違う価値観を持った人と接する機会が減ってきています。そのため、自分と異なる価値観の人と意見を交わしたり、受け入れたり、あるいはリスペクトするという経験や機会が失われつつあるのではないかと少し危惧しています。

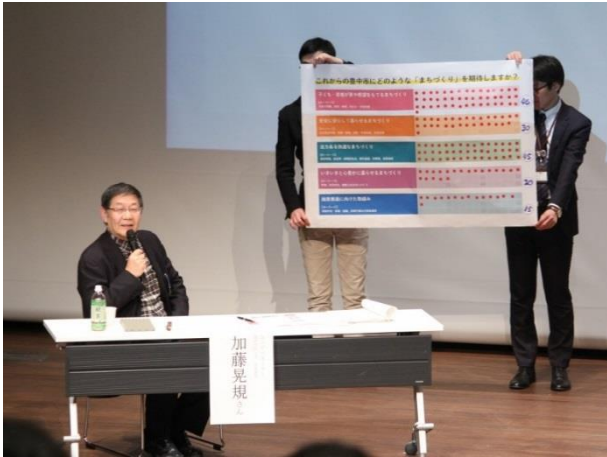
その意味でも、実社会において、多様な人たちが集まるような場、色々な立場の人の意見が聞けるような場をつくっていくということが、今後のまちづくりにおいては、求められているように思います。



総合計画の将来像が「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」と設定されていますが、様々な人、色々な立場の人が、ポジティブに自分の将来、未来を考えることができるまちにしていてもらいたいと思います。自分の将来や未来を悲観的に捉えてしまうことは非常に辛いことだと思います。なんとかなる、これからどんどん楽しいことができる。そんなふうには市民のみなさんが自分の将来や未来に対してポジティブに捉えられる。まちの将来像を実現していくためには、そうなることが重要だと思いますし、そのために総合計画があるのだと思います。ぜひ、みなさんで「みらい創造都市 とよなか～^{あした}明日がもっと楽しみなまち～」を実現させていただきたいと思います。以上です。

加藤氏 将来や未来に対して悲観的になるのではなく、ポジティブに捉えられるようにと期待を込めてご意見をいただきました。

本日、会場のみなさんには、来場時に「これからの豊中市にどのような『まちづくり』を期待しますか」と、「第4次豊中市総合計画」の前期基本計画の5つの柱から1つを選んでいただくワークにご参加いただきましたが、ここでその結果について、事務局から簡単にご報告いただければと思います。



っかけに、まちづくりについての議論をしていただきたいと思います。

4月から実際にこの計画に基づいた施策展開がなされていきます。そして今回は、行政が行政サービスとしてまちづくりをするのではなく、市民や事業者と連携、協働しながら、一緒に計画を推進していくこととしています。今後、これまで以上に、市民や事業者のみなさんと行政が連携・協働する機会、あるいは意見を交わす機会が生まれてくることを期待して、私の総括とさせていただきます。ありがとうございました。

— ワークの結果

事務局 1番多くご投票いただいたのが、第1章「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」の46票でした。2番目に多かったのが、第3章「活力ある快適なまちづくり」の45票でした。

加藤氏 この結果を見ますと、やはり第1章「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」への関心が高いことが分かります。第3章「活力ある快適なまちづくり」は社会基盤に関わる部分ですので、定番といえば定番で、重要な部分だろうかと思います。第5章「施策推進に向けた取組み」が15票と一番低かったわけですが、今回「市民・事業者の主な取組みイメージ」を示しているように、情報共有、参画・協働、持続可能な行財政運営を重要視した計画となっていますので、この点にもご期待いただければと思います。

その他、みなさん、ご意見等はございませんでしょうか。

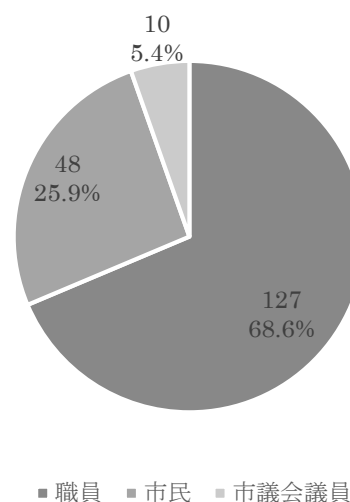
本日は、大きく4つのテーマでのパネルディスカッションをさせていただきました。パネリストのお三方のご意見を聞いて、みなさんの「第4次豊中市総合計画」に対する理解が深まったのではないかと思います。4月には冊子ができあがりますので、その際には是非、読んでいただければと思います。また、「第4次豊中市総合計画」をき

アンケート結果

参加者属性

n=185

- 本シンポジウムには 185 人の方が参加。
- その内訳は、豊中市職員が 127 人 (68.6%)、市民が 48 人 (25.9%)、豊中市議会議員が 10 人 (5.4%)。



■ 回収率

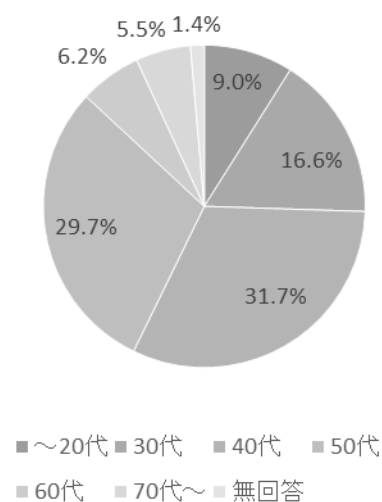
- 本シンポジウムの参加者 185 人中、145 人がアンケートに回答。
- アンケートの回収率は、78.3%。

1. あなたのご年齢を教えてください。(単一回答)

1. ~20代	2. 30代	3. 40代	4. 50代	5. 60代	6. 70代~
---------	--------	--------	--------	--------	---------

n=145

- 参加者は、「40代」(31.7%)、「50代」(29.7%) がそれぞれ 3 割程度。
- 次いで多かったのが、「30代」(16.6%) で、「~20代」(9.0%) も 1 割弱。

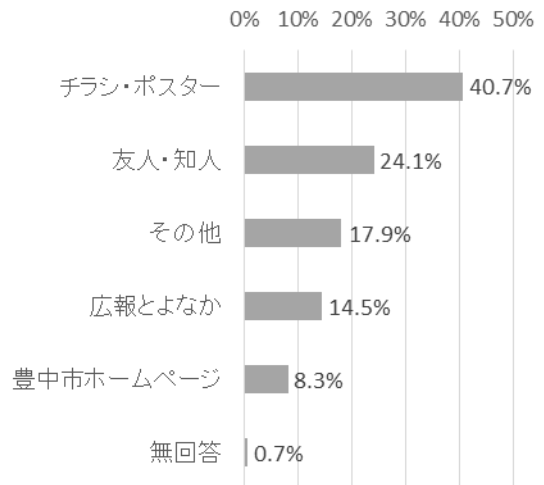


2. シンポジウムを何で知りましたか。(複数回答)

①広報とよなか	②豊中市ホームページ
③チラシ・ポスター	④友人・知人
⑤その他 ()

n=145

- 本シンポジウムを知ったきっかけとしては、「チラシ・ポスター」が40.7%と最も高い割合。
※ シンポジウムの開催告知用に、チラシ、ポスターを市内各所で配布・掲示。
- 「友人・知人」(24.1%)を通じて、知ったという方も全体の1/4程度。
- 「その他」としては、「庁内情報」「市職員からの案内」「インターンシップ」「facebook」など。

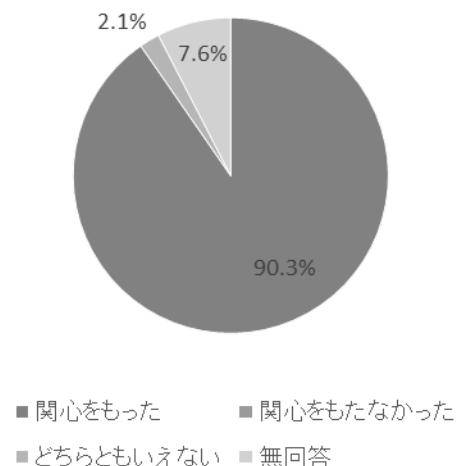


3. シンポジウムを受けて、第4次総合計画に関心をもたれましたか。(単一回答)

1. 関心をもった	2. 関心をもたなかった	3. どちらともいえない
-----------	--------------	--------------

n=145

- シンポジウムを受けて、第4次総合計画に「関心をもった」という方が90.3%。
- 一方、「関心をもたなかった」という方は、1人もいなかった。



4. シンポジウムを受けて、印象に残っていることやご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください。(自由回答)

n=145

<第4次豊中市総合計画についての主な意見>

- 施策を17項目にまとめたことは大いに評価できると思います。
- 概要版が見やすくよかったです。
- 行政だけでなく、市民、事業者も参画していくという方向性が明確になってよかった。
- 公平性や中立性という考え方がある中で、あえてリーディングプロジェクトを示して、豊中市の地域の特徴を生かしていくこと(まちの個性を伸ばすという考え)に重点を置いた計画であるということが理解できた。
- リーディングプロジェクトとして南部地域の活性化が位置づけられ、取り組むべき課題が明確に示されたと思います。
- 南部地域活性化プロジェクトで南部の問題が解決し、市全体が活性化されることに期待しています。
- リーディングプロジェクトの南部地域活性化は具体性がないと感じた。
- 「みらい創造都市 とよなか〜^{あした}明日がもっと楽しみなまち〜」という将来像がすごくよいと思います。
- ダイバーシティ(多様性)がキーワード。
- 「チャレンジする」「挑戦する」計画であることを知り、自分ももう少しそういう気持ちを持つとう、持ちたいと思いました。
- 総合計画が様々な人たちの意見から構成されていることを知ることができて、とても興味深く聞くことができました。

<パネルディスカッションについての主な意見>

- 市長が言われた“豊中らしさ”をさらに発揮することを目指し、市民、事業者と共に、取り組んでいきたいと改めて感じています。
- 市長の未来に期待する3点、分かりやすく心に残りました。
- 「計画策定がゴールではなく、スタートである」という言葉がありましたが、まさしくそうだと思います。
- 総合計画の策定は、新たなスタートであり、挑戦し、創造していくことが重要だと感じた。
- 「子どもを大切に育てる」というのは、「可愛がること」ではなく、「実体験・原体験をもとにしっかり鍛えるということ」というお話が印象的でした。
- 計画を実現するためには、力のある人だけでなく、全ての人の力を活用することが大事である。意識して、全てにおいて、進めていきたいと感じた。
- 豊中市(特に北部)はライフスタイルや志向などが似通っていて、そこから少し外れると生きづらさを感じることもある。特に子どもはこの傾向が強いように思う。子どもが多様な価値観にふれ、自信をつけ、人とつながるようにしていくことが重要だと感じた。
- 立場の違う人と交流し、自分と違う人を受け入れる機会を持つことの重要性を感じた。

＜進行についての主な意見＞

- 本編を見ながら聞けたらよかった。
- ディスカッションという形式ではあったが、一人ひとりが話す時間が長く、伝わりにくいと感じた。もっと意見を交わしてほしかった。
- パネルディスカッションは、テーマについて話すだけでなく、具体的な数値を示してほしかった。例えば、南部地域の事業者数や豊中市のクリエイティブクラスの多さなど。
- 話の中で、具体的な事例（課題）等を示しながら、「こういうことに取り組みたい！」「こういうところを解決したい！」と言うなど、まちづくりをもう少し身近に感じることができ工夫をしていただければ、さらに共感を得られたのではないかと思います。
- 関心を持ったので、後日、ネット等で詳しく知りたいと思った。総合計画に関する情報が載っているサイト等があるのであれば、URLなどを載せていただきたかったです。

＜これからの課題についての主な意見＞

- 豊中市は何でもあるし、便利だけれど、逆に特別に何かをPRすることが難しいように思っていたが、それを逆手にとって、多様性があるということをまちの個性として、PRできるようになるのではないか。
- 次世代の人材育成を推進することが本当のまちづくりと感じた。
- 第4次豊中市総合計画を推進するためには、第5章に掲げた施策推進の取組みをいかに実行するかにかかっているかと思います。PDCAサイクルを行政、市民、事業者がそれぞれの立場で回し、実現視させていくことが大切と感じました。
- 想定人口の約40万人中、10万人は高齢者。そしてその高齢者は年々、増加するし、年も重ねていく。高齢者の自立を促し、孤立化を防止しつつ、いかに他世代とつなげていくのが大事なのだと改めて認識しました。
- 市民に対して、総合計画の意義を広く伝達する必要性を感じた。広報とよなかやホームページで、まず今日の内容を情報発信すべきと思った。
- 任せるのではなく、参画していくことが必要。
- 多くの市民に総合計画を伝えることが必要だと思う。

＜シンポジウム全体についての主な意見＞

- 会場がいっぱいで本当に心強く思います。
- 大変に充実した有意義なシンポジウムであったと思います。
- オープニングムービーは力を入れて作ってあってよかった。
- 豊中市の持つ市民力、事業者の力、行政の思い等、ポテンシャルの高さを認識した。
- 市民・事業者・行政の協働とパートナーシップで総合計画を推進していきたいです。
- 未来への課題は山積みですが、前向きに取り組んでいくことが大切であると感じました。
- 豊富な資源・ポテンシャルを生かしたまちづくりに期待します。
- 教育、学びに力を注ぐ子ども・子育て支援をぜひ実施していただきたいと思いました。
- どんな人でもクリエイティブになれる、挑戦できるまちに。

- 豊中市は地域力、市民力が宝だと思いますので、ここをもう少しまちのブランドに育ててほしい。
- 若い人が豊中に住んでもらえるまちづくりを（夢があるまちに！）
- 豊中だから1つにまとまっているのではなく、（地域ごとに）色々な顔があるのが豊中なんだと思いました。これからが楽しみになってきました。
- 様々な顔、個性のあるまち＝力のあるまちという印象を持った。様々な分野において、秀でたプロフェッショナルが集めって興す事業、モノ、プロジェクト、イベントなど、これから何が作られるのか、何を作ることができるのか見てみたい。
- 「豊中ならではの取組みを進めている」「市民がいろいろなことに挑戦している」、そんなまちにしてほしい。

【ワークの結果】

シンポジウムにご参加のみなさんに、「これからの豊中市に期待する『まちづくり』」（第4次豊中市総合計画 前期基本計画の各章とリンク）について一人一票で投票していただくワークを実施。結果は下記のとおり。

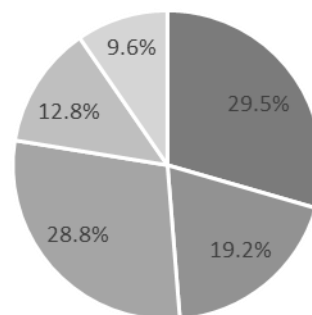


これからの豊中市にどのような「まちづくり」を期待しますか？

子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり 【キーワード】子育て支援、保育・教育、若者支援	46 票
安全に安心して暮らせるまちづくり 【キーワード】自立生活支援、保健・医療、救急救命、安全対策	30 票
活力ある快適なまちづくり 【キーワード】都市環境、低炭素・循環型社会、都市基盤、住環境、産業振興	45 票
いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり 【キーワード】平和、市民文化、健康と生きがいづくり	20 票
施策推進に向けた取組み 【キーワード】情報共有、参画・協働、持続可能な行財政運営	15 票

n=156

- 156人がこのワークに参加。
- 「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」（29.5%）、「活力ある快適なまちづくり」（28.8%）がそれぞれ3割弱。
- 次いで多かったのが、「安全に安心して暮らせるまちづくり」（19.2%）。



- 子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり
- 安全に安心して暮らせるまちづくり
- 活力ある快適なまちづくり
- いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり
- 施策推進に向けた取組み

豊中市 政策企画部 企画調整課
平成 30 年(2018 年)3 月 作成